

**きょうの試合**

（左のチームが一塁側）

◇弘前市はるか夢

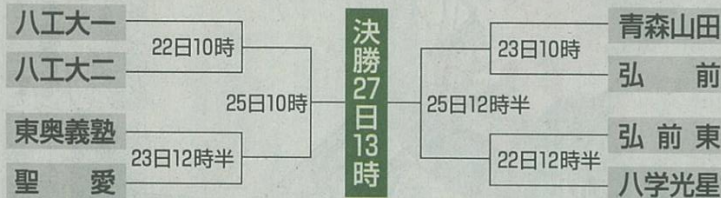
▷準々決勝

八工大一—八工大二(10・0)

弘前東—八学光星(12・30)

第105回全国高校野球選手権青森大会は22、23の両日、弘前市はるか夢球場で準々決勝4試合を行う。22日は八工大一—八工大二と弘前東—八学光星、23日は青森山田—弘前と東奥義塾—弘前学院聖愛が4強を懸け激突する。8チームの戦いぶりを振り返り、準々決勝の各試合を展望する。（本田海輝）

第105回  
全国高校野球  
青森大会



**準々決勝進出8校の成績**

チーム	試合数	得点	失点	打数	安打	打			打率	犠打	盗塁	失策
						二塁打	三塁打	本塁打				
八工大一	2	22	3	53	23	3	0	0	.433	9	5	3
八工大二	2	11	7	62	19	2	0	0	.306	8	0	3
東奥義塾	2	18	1	53	22	5	0	1	.415	4	7	3
聖愛	2	21	8	57	23	5	1	1	.403	10	11	0
青森山田	2	21	0	55	23	5	2	0	.418	7	14	1
弘前	2	12	2	50	10	1	2	0	.200	3	3	2
弘前東	2	33	4	71	34	7	2	1	.478	3	3	2
八学光星	2	22	5	57	20	5	1	2	.350	1	3	0

きょうから8強激突

22日の試合

**工大一 打線好調 工大二 速応が鍵**

春の県大会を12大会ぶりに制した八工大一と、兄弟校の八工大二が激突する。

八工大一は打率が4割超と好調。犠打と盗塁を絡めた持ち前のプレースタイルで勝ち上がった。特に2番今野、6番市川が当たっており、中軸がさらに活気づけば相手の脅

23日の試合

**総合力の山田高 弘前は接戦活路**

5大会ぶりの聖地を狙う青森山田と、公立校で唯一ベスト8入りした弘前が対決する。

青森山田は2、3回戦とも無失点でコールド勝ち。盗塁数は14で、機動力を生かして好機を広げる場面が目立った。総合力が高く、切れ目のない打撃陣と投手陣がかみ合えば頂点が近づくと見られる。弘前は左腕対馬ら投手陣が勝敗を左右する。打撃では主

威となる。

八工大二は主戦速応の出来が鍵。直球を武器に2試合を完投し、計17三振を奪った。連投の疲れが気かりだが、地力十分。昨夏は不戦敗、春の県大会では苦杯をなめた相手への雪辱を期す。

**光星 攻守隙なし**

春の東北チャンピオン会の八学光星に、初の甲子園出場を狙う弘前東が挑む。

**弘東 3番が好調**

砲一戸がパンチ力十分。昨秋と春の県大会ではいずれも青森山田と好勝負を演じており、ロースコアの接戦に持ち込めれば勝利が近づくと見られる。

**好機に強い東義 足と小技の聖愛**

弘前地区を代表する強豪校の東奥義塾と聖愛が、ぶつかると注目の一戦となる。東奥義塾は2試合で小田切や成田玲、倉橋ら計5投手が登板し、失点は1。上位から下位までバランスよく安打を放っており、好機で一気に積みかける。安定感ある戦いで主権を握りたい。

八学光星は2回戦で主戦岡本が不調だったものの、主将中澤恒、藤原の一発などで打ち勝った。持ち前の打撃力に加え無失策の守備も光る。投手陣も豊富で、攻守で隙が少ない。

弘前東は打率が8強で最も高い4割7分8厘。中でも3番長峰は本塁打を含む8打数7安打と好調だ。主戦福土開も安定感抜群。昨秋の県大会では7-6で競り勝っており、勝機はある。

聖愛は10犠打、11盗塁を記録した小技と好調の打撃陣で得点をもぎ取る。2回戦は5投手、3回戦は4投手を起用し、相手に狙い球を絞らせなかった。準々決勝でも早めの継投が予想される。